

わくわく・ドキドキが伝わる生活科の創造
～豊かな体験や探究活動を通して～

I はじめに

児童は、生活科の学習の中で体験活動をとっても好み、意欲的に取り組むことができる。そこで、生活科の学習では、わくわく・ドキドキ感をもてるような体験活動に着目したい。繰り返し継続的な体験活動を進めていくことで、学習の流れが分かり、先を見通して活動することができれば、少しでもわくわくドキドキ感をもって意欲的に学習できるだろうと考えられる。

そして、固定的に予測・話し合い・観察・発見・気づき・まとめ・発表という単元構成にしていくことによって、児童の思いが友達や家族に伝わるのではないかと考え取り組んできた。

II 実践事例

1 単元 あきとなかよし

2 目標

- (1) 校庭や地域の公園の自然とかかわる中で、自然の変化に関心をもったり、親しんだりしようとする。(生活への関心・意欲・態度)
- (2) 秋のネイチャーゲームをしたり、自然物を利用して作品作りをしたりして考えや感想などを表現することができる。(活動や体験についての思考・表現)
- (3) 季節による変化の変化に気付くとともに、自然と遊ぶ楽しさや友達と活動するよさに気付くことができる。(自然の変化や自分についての気づき)

3 指導にあたって

○本単元は、学習指導内容(5)(6)を受けて設定した。

校庭のビオトープ「こころのふるさと」や地域にある自然公園を活動の場として、年間を通して繰り返しながら活動することにしている。繰り返し同じような活動をさせることで、

- ①季節の変化を感じとれる。
- ②自然と関わって遊べる。
- ③季節が変わると自分たちの生活も変わることに気付く。
- ④四季の変化や自然を楽しんで生活に生かせるようになることを目指している。

引き続きネイチャーゲームやビンゴゲームを通して、季節のプレゼントを見つけたり、四季や生活の様子の変化に気付いたり、興味をもって遊びや生活を工夫することができるようになることを考えた。

○本学級の児童は、明るく活発な児童が多く、外遊びに関心をもっている。それぞれにお気に入りの遊びや遊び場所があり、四つ葉のクローバー探しや虫取りなど、友達を誘って遊ぶ姿が多く見られる。

○指導にあたっては、季節の変化に気付かせる学習計画をたてたい。自分の周りの様子について、観たり、調べたりしながら話し合いをさせ、自分の気持ちや考えを何らかの方法で表現できるようにしていきたい。さらに気付きを高めさせるために、ネイチャーゲームやビンゴゲームなど継続的な学習を進めながら、季節の変化に応じた遊びや生活ができるようにしていきたい。

児童の実態アンケート調査（男16人・女15人 計31人）

調査項目	回 答
①あきだなおもったことは？	あつくない・すずしい（20）たべもの（25） いえのまわりのようす（19）ようふく（18） きのみをみつけた（17）はな（12）あいさつ（2）
②空を見たら耳をすましたらなにがはっけんできるかな？	ねむくなった（25）とんぼがとんでいた（21） きもちない（19）虫のこえがきこえた（12） かぜのおと（10）くもが見えた（16） その他（14）
③しぜんこうえんのへんしん	いきもの（27）いけの中（23）かだん（20） くさむら（17）木（15）くも（3）その他（7）

4 指導計画（28時間取扱）

第1次 むしとなかよし・・・6時間

第2次 しぜんとなかよし 2・・・11時間

次	時間	学習内容・活動	評価の観点
2	1・2	こうていへしゅっぱつ	校庭やビオトープの様子や変化に気付くことができる。（観・カ）
	3	おや?!かわったぞ	観察カードから変化したことを表現する。（発・カ）
	4.5	もっとあきさがし（けいかく）	意欲的に話し合いに参加し、学習計画を立てようとしている。（観・カ）
	6	もっとあきさがし（じゅんぴ）	ネイチャーゲームの仕方を理解することができる。（観・ワ）
	7	ネイチャーゲーム2	友達と一緒に仲良くゲームに参加している。（観・ワ）
	8		ゲームを通して季節の変化や宝物に気付き、それを自分なりに表現できる。（発・観・ワ）
	9		
⑩ 11	もっとあきさがしのまとめをしよう	もっとあきさがしで探したことや物について、自分の思いを話すことができる。（発・観・ワ） 探せたことを絵や物や言葉や文で表現することができる。（カ・観）	

第3次 あきのたからものをつかって . . . 6時間

第4次 おおきくなあれ . . . 5時間

5 本時の指導

(1) 目標 ○もっとあきさがしでさがしたことや物について、自分の思いや考えを分かりやすく話すことができる。

○探せたことを絵や言葉や文で表現することができる。

(2) 準備 ワークシート・カード・模造紙・のり・クーピー・筆記用具

(3) 展開

学習活動・内容	活動の支援と評価
	・全体への指示や支援 ◎個に対する配慮，支援
<p>1 前時の振り返りをする。 「もっとあきさがし」について話し合う。</p> <p>2 本時の学習課題をつかむ。 もっとあきさがしではつけなかったことをまとめよう。</p> <p>3 発見したことを話し合う。 ・グループごとに自分の発見を発表する。 すすきがありました。 細いです。 コオロギの 鳴き声が聞こえました 家で、違う鳴き声をききました。 花壇の花と違う 花が咲いていました。</p> <p>4 発見したことをまとめる。 ・「たくさんはっけん」目指してまとめる。 ・カードにまとめる。 ・模造紙にカードをはる。 春にはあったのに</p>	<p>「もっとあきさがし」を振り返らせながら本時の学習について関心を持たせるようにする。 話し合いに参加できない児童には、様子を見ながら声をかけるようにする。 ・「たくさん発見」をキーワードに意欲を持たせまとめ方の方法を確認できるようにする。 ◎集中して話が聞けない児童には、姿勢や顔の向きなど声をかけるようにする。 友達に分かるよう、自分の発見カードや物を使って紹介できるようにする。 発表に戸惑う児童には、何を見つけられたのか聞き取り、話し方を支援する。</p> <p>発見したことを友達に分かりやすく話せたか。 (発表・観察・ワークシート)</p> <p>自分の考えに自信を持ったり、友達の発表の良い点に気付いたりできるようにする。</p> <p>・発見したことをカードに書いたり、物を貼り付けたりしながら「もっとあきさがし」のまとめができるようにする。 発見したことが重なる場合は、話し合っって公平に決めるようにする。 自分でまとめられない児童には、思いを聞きながら下書きをしたり、文字を教えたりしながら進んでカードに書けるようにする。</p>

<p style="text-align: center;">たくさん発見できた！</p> <p>5 本時のまとめをする。 ・活動を振り返り感想発表をする。</p>	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">カードに発見したことを様々に表現して、秋さがしのまとめができたか。(カード・観察)</p> <p>・本時を振り返り、進んで発見できたことを称賛し秋にはたくさんのプレゼントがあることを感じさせるように話をする。</p>
--	--

Ⅲ 成果と課題

(1) 成 果

○気づきや発見が比較的簡単にできるよう、季節別のネーチャーゲームを通して、同様の場所や学習内容で進めてきた。「春には、あったのに・・・」「夏は・・・」「秋って・・・」と対象物や気に入っているゲームや場所などを絞れたため、次々に季節の変化を探ることができた。

○ひとりひとりが発見できたことやわかったことを言葉や簡単な文や絵などで学習のまとめを進めていた。表情などから、わくわく・どきどきしながら発見したことを嬉しそうにまとめていたのが印象的であった。

○春・夏・秋・冬と繰り返しの学習（ネーチャーゲーム）で、予測したり、観察したり、まとめたりと体験学習の流れが児童にわかりやすく計画を立てたため意欲的に取り組んだ。「あれ？」「どうして・・・」などの不思議や疑問に対しても本を読んだり、見たり、おうちの人に聞いたりしながら探りあてる姿も見られた。

○児童のまとめた作品（掲示物）は、季節ごとに廊下や学習室に掲示をして、友達の発見や自分の発見を比較をさせたり、自分には気付かないことを知ることができたりと読み比べや見比べの後にも、話し合いを設けた。さらに、秋探しの枠が広がり、関心が深まるのを感じた。

(2) 課 題

学校生活全般において、児童が自分の気持ちや考えを恥ずかしがることなく表現できることが大きな目標のひとつであるため、生活科においても豊かな体験学習を数多く取り入れることや体験学習の後に簡単な話し合い活動を組み込んでいくことが大切であると考えている。今後の学習計画の中にも、これらを位置付けていきたい。

児童の学習の様子を記録することによって、実態の把握や指導・支援の仕方について生かしていくことができると考えられる。そのためにも、記録を残すことに力を入れていきたい。

活動や学習において、褒めて励ますことは、児童の意欲や関心を高めることになる。児童の発表や話やつぶやきなどの中から、たくさんひろって紹介したり、記録に残したり、板書したりしながら、話し合い活動が意欲的に取り組めるよう、今後指導の工夫をしていきたい。